

平成16年度第4回図書館協議会会議録

日 時 平成16年7月23日（金）

午前9：30～午前11：30

場 所 鎌ヶ谷市立図書館3階保育室

出席者 石井 恵美子（委員長）
倉田 智子（委員）
須賀 法子（委員）
菊地 芙美子（委員）
秋山 弘子（委員）
山口 けい子（委員）
山田 美保子（委員）
事務局 齊藤 幸四郎（鎌ヶ谷市立図書館長）
富永 康彦（奉仕係 副主幹）
風野 憲行（庶務係 主査補）

委員長（挨拶）業務委託がうまくいっていると研修で聞き、安心している。鎌ヶ谷市もこういう時代になってきてサービス低下にならないように、そこらへんを頭に入れながら議題に入っていただきたい。

教育長（挨拶）いくつか耳にいれておきたい話がある。袖ヶ浦の研修に行くつもりだったのだが、校長会とぶつかって参加できなかった。館長からの報告も受けたが、見たほうがよかったのかなと思っている。

年度末までに、「子ども読書推進法」に基づいて鎌ヶ谷の街としてどのようにするか進めている。「平和図書館展」は私が教育長になってからやるように指導したもの。戦争と平和について考えてほしいという気持ちを込めたのだが、残念ながら利用者が少ない。戦争と平和というものに対して鈍感になっているのか食傷気味になっているのか、皆さんの方の力でPRに励んでもらいたい。年1回くらいは考えてもらいたいなと思っている。毎年ニュージーランドのワカタネと交流を図っているのだが、ワカタネに大災害が起きている。世界的に異常気象なのかなあと思っている。

館長 議事進行については委員長よろしく。

委員長 それでは、報告事項について事務局から。

館長（資料説明）**先進地図書館視察研修報告について**

委員長 なにか意見は？ では、私から。袖ヶ浦市では職員が毎月研修会を開いている。プライバシーなどの意識改革などをやっているようだが、とてもよいことだと思った。お

互い研修しあうというところは鎌ヶ谷も見習って欲しいところです。とくに業務委託をしてから変わったということはないらしい。司書職を必ず入れているので専門性は高いみたいですね。

委員 職員は全て司書。一般職は、館長だけ。近隣でも同じような傾向にあるのかなと思った。人口が少ないのに本当に恵まれているなあと思った。ないものねだりはできないので、財政難のなかでがんばってもらうしかない。

委員 第一に感じたのは、いままでそこに働いていた人たちを雇っていくこと。

教育長 職員体制、鎌ヶ谷は8名、袖ヶ浦は13名。どうしてこんなに違うのだろうか？

館長 蔵書冊数の違いもあるので相対的には多いとは思いますが…。それ以上に袖ヶ浦市は、学校との連携が強い。

委員 年間で「おはなしの会」が教育委員会を中心としてプログラミングされているようだ。

委員 学校図書との物流が活発なので、貸出し冊数も多いのだろう。

委員長 分館の色合いもある。地域の特色というものがある。

館長 学校との物流については、「仕掛け」で行かないといけないと思う。

委員 利用者にとっては、正職員、委託職員、パートは関係ない。そういう面では、うまくいってる例だと思った。従来 of 専門性の高い人を委託に使っているというのは良い。

委員長 では、次、協議事項お願いします。

館長 (資料説明) 鎌ヶ谷市立図書館運営の在り方について

委員長 今説明がありましたが、何か質問は？「図書館法」の改正がされると聞いているが、その段階で「指定管理者制度」を導入できるのか？

館長 中央館なら中央館に「館長」という市の職員を配置すれば国としてはOKになる。区などでは、ほとんど職員は一人しかいない。あとは、委託。ただ、本館には職員がそらっている。すでに国レベルで動いているとあってよい。

委員長 事務局としては、あくまで「業者委託」ということか？

館長 はい。

委員長 懸念されるのは、よい業者が当たるかということ。

館長 通常だと、一般競争入札になってしまうが、「安かろう、悪かろう」の率が高くなる。したがって、「実績」を重視し、仕様書を細かく設定して、それに対応できるような業者にしぼりこまなければならない。

少々金額が高くても、ノウハウをもっているところに頼みたいとは思っている。

委員長 「安かろう、悪かろう」というのは図書館にとっては致命的ですから、十分に注意して頂きたい。

委員 図書館の配置図なのだが、もっと「図書館が変わったなあ」と思えるような配置図にしてもらいたい。

館長 いまは、お金をかけないで機能を高めるということになっている。将来に向けて「これが望ましい図書館」というものもないだろうから、とりあえず、図書館は図書館として確保したいという意向があって、このようにした。「図書館本来の図書館」として使いたいということだ。

委員 この際、何かイメージチェンジというものを打ち出してもらいたい。

館長 今後の図書館で活躍するであろうボランティアなどの拠点として図書館を活用してもらいたいと思っている。そこでこのようなレイアウトにしてある。

委員長 ほかに？ 業務委託の件についてないか？

委員 将来このようにしたいというイメージできるような資料は貼付できないか？

変わることが前提で「図書館としてまると使いたい」という意向が感じられない。

委員 業務委託には賛成。民間委託しているところは、むしろ前よりよくなったという意見を聞いている。時代の流れとして正しいのではないか？ 利用者が「○」をつけるような図書館作りを考えることが大切だと思う。

館長 お金をかけないで、市民サービスを拡大、ということを考えて業務委託は効果的だと思う。

教育長 鎌ヶ谷には、複合施設があまりにも多い。そのためには、「図書館なら図書館」という使い方のほうが好ましいと思っている。

委員 いま、ようやく鎌ヶ谷市の小学校でボランティアの交流を図らせている。ボランティアルームのようなものがあれば、ボランティアの力を存分に発揮できるのでは無いか？ 豊かな活動ができるのではないか？

こういうところを拠点とすれば、ボランティアの力を活用できるのではないかと期待している。

委員長 業務委託の件だが、委員会として意思表示しなければならない時期がきたと思う。この運営の在り方ということで、具体的に文章を作成して 9 月頃に皆さんにお知らせするかそれとも…。

館長 もうちょっと整理して皆さんにお渡ししたい。8月頃くらいになる。まとめたものは市長、教育長に報告し、その写しは次回皆様にお渡しします。

委員長 それでは、業務委託についてはこれまでにしたいと思います。後なにか？

館長 非核平和宣言都市 20 周年になります。市全体の行事の一環として、「平和図書展」をとらえているのでよろしくお願ひしたい。

以上で平成 16 年度 4 回図書館協議会を終了。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するため、次に署名する。

平成 16 年 12 月 16 日

氏名 菊地 芙美子

氏名 秋山 弘子